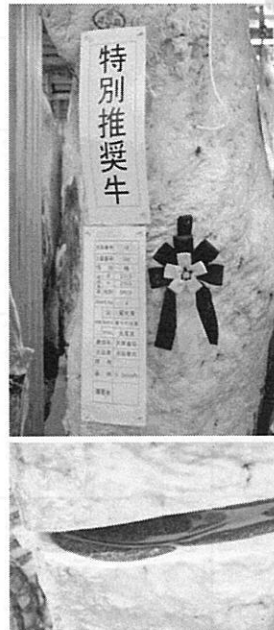


○ あか毛和牛協会が販売促進会、特別推奨牛に池田章司氏、3千円で成城石井が購入

全日本あか毛和牛協会(穴見盛雄代表理事)は14日、埼玉・和光市のアグリス・ワン和光ミートセンターで「19年あか毛和牛認定農場枝肉販売促進会」を開いた。あか毛和牛の普及による増産と生産農家の経営安定に寄与することを目的に開催されるもの。今年で6回目を数える今回は、熊本県から23頭が出品。同会として初めて「ちぎり方式」を採用し、審査の結果、特別推奨牛に池田章司氏(上天草市)の出品牛(24.8カ月齢、雌、枝肉重量541.0kg、A3、BMS4)で、キロ当たり提示価格3,000円で成城石井が購入した。奨励牛は東洋一氏(西原村)の出品牛(25.2カ月齢、去勢、566.5kg、A3、BMS4、提示価格2,800円でセントラルフーズ)、日置一誠氏(西原村)の出品牛(25.2カ月齢、去勢、530.0

kg、A3、BMS4、2,800円でつばめ)となった。出品牛23頭の平均月齢は27.4カ月、搬入時体重は812kg、枝肉重量525.9kg(421~6、皮下脂肪厚が2.9cm(1.4~4.6cm)、ロース芯面積62.3cm²(51~79.5cm²)、バラ厚8.28cm(5.8~10.4cm)だった。

審査後に開かれた生産者表彰式で穴見代表理事は、6回目の促進会を開くことができた



ことに関係者に対して感謝の意を示し、「今回出品された枝肉はいずれも非常に素晴らしいと高い評価を受けている。今回、ちぎり方式という新しい方式で販売会を開くが、生産者のみなさんの期待に応えられる販売会になることを期待している」とあいさつ(=写真⑤が池田さん、⑥が穴見代表理事)。その後、審査した帯広畜産大学の口田圭吾教授、熊本県農業研究センターの江口敬子研究参事が審査報告を行い、江口参事

からは「今回はすべてA等級で瑕疵のところもなく、非常にそろった枝肉となった。そのなかで、審査も難しかったが、いずれも素晴らしい成績の牛を出品された」と講評。口田教授は、特別推奨牛に選ばれた池田氏の出品牛について「雌のなかでは最も重量が大きく541.0kgで、ロース芯面積も非常に大きく64cm²でバラ厚も9.1cmとトップクラスのバラ厚だった。皮下脂肪の厚さが平均2.9cmに対して3.2cmと若干厚めだったが、ロース芯も周りを見ても筋間脂肪があまり入ってなくて非常に使い易い肉であると購買者からも評価を受けており、まさに『あか牛』といってよい枝肉だった」と称賛した。

【訃報】 元日本食肉生産技術開発センター理事長の杉本克己氏が死去

元・公益財団法人日本食肉生産技術開発センター理事長の杉山克己氏が14日に死去した。91歳。通夜は19日午後6時から、葬儀は20日午前10時から、神奈川県横浜市港北区新横浜1-7-5の「新横浜総合斎場」(電話045-472-5550)で執り行われる。喪主は妻まさ子さん。

○ 7位に御殿場高原あらびきポーク袋220g—6月POS畜肉ソーセージ

流通システム開発センターとKSP-POSデータの6月畜肉ソーセージ売れ筋商品ランキング(全国のスーパー・生協等1,013店舗の集計)によると、50位以下を含む総販売金額は10億9,075万円、個数は400万2,860個だった。1店平均107万6,749円(前月比11万4,393円減)、3,951個(同324個減)。平均単価は、272.5円(前月278.6円)となった。

ベスト3は、①シャウエッセンウインナー2束、②香薫あらびきウインナー2P200g、③グランドアルトバイエルン127g×2となった。6位まで前月と変わらず、7位には前月8位の御殿場高原あらびきポーク袋220gが上昇した。(10面資料欄参照)